

春風秋霜

3月号

令和5年3月20日
島田市教育委員会日より
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 4月から、学校でマスクをするかしないかは自由です。

昨年4月に教育長を拝命して、1年が経とうとしています。教育行政の長として、今後考えていくことも多く、皆様のお力を借りながら頑張っていきたいと思っています。教育委員会は、学校だけでなく、管轄している領域が広いので、赤ちゃんからお年寄りまで幅広い市民の方々が対象となった施策を考え、実行していかなければなりません。各課の職員の皆さんが力を合わせて一生懸命仕事をしていますが、外から見るとまだまだとご指摘をいただくこともあります。今後も「活動する皆さんが分かりやすいように」、「使いやすいうように」という視点からいろいろと考えて企画・運営してまいります。令和5年度も、よろしくお願ひいたします。



<一人一台端末の活用>

さて、今回のテーマですが、学校におけるマスク着用について書こうと思います。世界から配信されるニュースを見ていると、色々な国の中継の様子が画面に出ることがあります。アジアの国ではマスクをしている人たちが時々映るのですが、欧米の国の中継では、あまりマスクをしている人がいないように感じます。私が暮らしていた南米コロンビアでは、あまりマスクをする習慣がないようで、コロナ感染症対策でマスクをすることが義務付けられてからは、マスクをする人が日常になりました。しかし、それ以前は、マスクをしていると病気だと表明しているようなものだから、周りの人が反対に気にすると言われたこともありました。日本では、花粉対策でマスクをしたり、風邪をひいたり、咳が出たりするとマスクをすることが普通ですが、そうではない国があるということを考えないといけないように思います。国や文化、生活習慣によって、その国の人たちの常識はみんな違うということです。

日本では、マスクを着用することにあまり違和感がない人が多いと思います。政府の指針が出されていますが、学校においては、4月からは、自分の判断でマスクをするかしないかを定めるように示されています。先日、島田市教育委員会から保護者の皆さんに対して「教育委員会の提言」を出させていただきました。「4月から、マスクをするかしないかは、自由です。個人の判断に任せます。」という内容の提言です。ただ、子どもたちは「自由です」と言われても、きっとどうしたらよいのか迷うでしょうから、学校の中でのマスク着用については「家庭で話し合ってみましょう。」という投げかけをしています。マスクをすることについて賛成の方も、反対の方もいますので、保護者と一緒に考えていただこうという提言です。

国では、基本的に次のような考えを示しています。「学校において4月1日以降、児童生徒へのマスク着用については、求めないこととする。特に、一定の配慮が必要な児童生徒がいる場合は、必要に応じて対応する。基礎疾患があるなど様々な事情により、感染不安を抱き、マスクの着用を希望し、また、健康上の理由によりマ

マスクを着用できない児童生徒もいることなどから、学校や教職員がマスクの着脱を強いることのないようにすること。また、児童生徒の間でもマスクの着用の有無による差別・偏見等がないよう適切に指導を行うこと。」

以上のような政府の見解も入れて、色々な環境に置かれている子供たちがいるということを考慮して家庭で考えていただくことが、大事だと思います。マスクをするかしないかを家庭で考えていただき、出した結論については、マスクの着脱を強いることはしません。3月13日以降、世間ではマスクをしてもしなくてもよいという方針が示されています。テレビ報道を見ていますと、マスクを外すのが恥ずかしいとか、花粉症なのでマスクを外したくても外せないという人や、マスクがあると息苦しいので、マスクはしないという人など、それぞれの考え方を表明していますので、それは良いことだろうという感想を持ちました。

ちなみに私の母は、90歳になりますが、体も弱いから自分はマスクをつけたいと言っていました。私は、TPO（時・場所・状況）を考えてマスクをしたり、外したりしようと考えています。みなさんは、どうされますか？

肘かけ椅子

「人生の節目に思うこと」

教育部長 中野 和志

3月、4月は別れと出会いの時期です。

卒業、異動、退職、就職、入学。慣れ親しんだ人との別れや新しい人と出会いをこれまで幾度と繰り返してきました。

私事ですが、この春をもっていよいよ定年退職を迎えることとなりました。

先日、雨上がりの日、久しぶりに職場から自宅まで、これまでのことに思いを馳せながら歩いて帰りました。普段は自転車で脇目も降らず通り過ぎる道ですが、通い慣れた道や見慣れた風景は、その時々喜びや哀しみを思い起こさせ、少し感傷的な気持ちにさせてくれました。

この38年間の道のりは、山あり谷あり、振り返れば様々な思い出が鮮明に蘇り、感慨深いものがあります。多くの人に支えられ、助けられ、今の自分は生かされてきました。だからいつも“感謝の気持ち”と“謙虚さ”を大切にしなければいけないと思っています。

これから、春の陽気になり草木がいよいよ生い茂る季節です。通り沿いの桜の木にはつぼみが膨らみはじめ、数日後にはその美しさで覆われ、人々に喜びと希望を与えてくれるでしょう。これからもいろいろな人との出会いがあるでしょう。

“感謝の気持ち”と“謙虚さ”を持ち続け、第二の人生を楽しく過ごしていきたいと思えます。38年間本当にありがとうございました。

